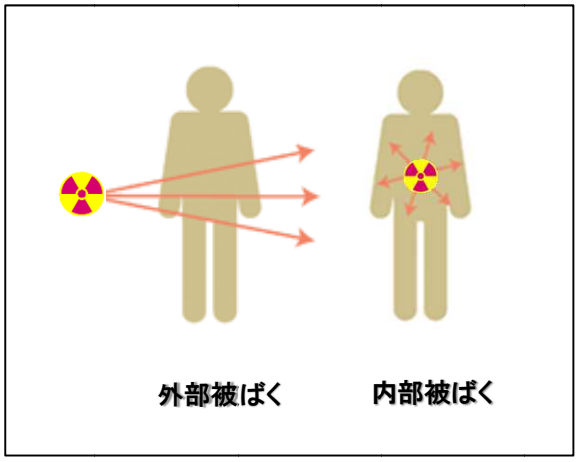
原子力防災出前講座

安定ヨウ素剤による被ばくからの防護

原子力発電所で事故が起こった際は、事故現場から出る放射線と放射能（放射性物質）によって被ばくする危険性があります。



１．被ばくとは？

【被ばくの種類】

① 外部被ばく・・・体の外から放射線を受ける

② 内部被ばく・・・体の内から放射線を受ける

③ 汚染・・・内部被ばくと外部被ばく両方から放射線を受ける

【被ばくの障害】

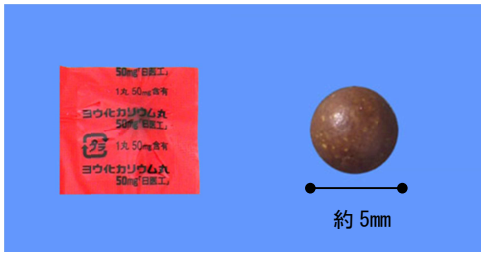
・急　性・・・脱毛、皮膚障害など

・晩発性・・・発がん（何年も経ってから発症）

※特に成長期にある若年層は影響を受けやすい。

２．安定ヨウ素剤の効果

放射能の一つである放射性ヨウ素は、甲状腺に取り込まれやすい性質を持っていて、もし甲状腺に取り込まれると内部被ばくをおこし、甲状腺がんの原因になってしまう危険性があります。このため、あらかじめ安定ヨウ素剤を飲むことにより、安全なヨウ素で甲状腺を満たし、放射性ヨウ素が取り込まれるのを防ぐことができます。



安定ヨウ素剤（ヨウ化カリウム丸）

ただし、放射性ヨウ素以外の放射能（セシウム、ストロンチウムなど）を防ぐことはできないことに注意が必要です。

さらに、安定ヨウ素剤は内部被ばくを防ぐ手段であり、当然のこととして外部被ばく（注 1）や汚染（注 2）に対しては全く無効です。

（注１）【外部被ばくからの防護】

◆時間・遮蔽・距離の三原則

「早く」・「遠くへ」・「逃げる」ことが重要です。

（注 2）【放射能による汚染（外部被ばくと内部被ばく両面を持つ）からの防護】

◆建物の中に入り、窓を閉めたり換気扇を止めたりして放射能が建物内に侵入するのを防ぐ（屋内退避）。

◆放射能が飛来するおそれのない場所まで迅速に避難する。

３．安定ヨウ素剤の服用

【タイミング】

被ばくのおそれのある 24 時間前から直前に服用するがベストです。

【服用量】

小学生以下　丸薬１錠

中学生以上　丸薬２錠

多く飲んでも意味はありません。

《安定ヨウ素剤の服用量》

対象年齢	ヨウ素量	服用内容
新生児	12.5mg	安定ヨウ素剤内服液1ml
生後1ヶ月以上3歳未満	25mg	安定ヨウ素剤内服液2ml
3歳以上13歳未満	38mg	丸薬1丸。
13歳以上	76mg	丸薬2丸。

【服用回数】

原則１回限りです。

【妊婦、授乳婦対応】

妊娠中の方は、胎児の甲状腺被ばくを防ぐために優先的に服用する必要があります。

また、乳児に対しては母乳を通してヨウ素剤を与えることができるので、授乳中の方も服用する必要があります。

【副作用】

安定ヨウ素剤の副作用は非常にまれだといわれています。100 万人あたり１人に甲状腺異常や皮膚障害・頭痛・吐き気・下痢症状などの軽度な副作用が現れることがあります。治療が必要となる重度な副作用の発現については、安全といわれているインフルエンザ予防接種での発現のさらに 20 分の１という低さです。このことから安定ヨウ素剤は非常に安全な薬であるといえます。

４．問診票によるチェック

副作用が予想される人は事前チェックでほとんど予測できます。このため、問診票にあらかじめ記入していただき、その内容を医師等が見て問題がないと判断できれば服用可能です。

５．まとめ

①原発事故の重大な問題点は、火力発電所等の事故とは異なり被ばくをすることです。

②被ばくの中でも体に放射能を取り込む「内部被ばく」は長く健康に悪影響を及ぼすことが問題となります。

③一旦体に取り込まれた放射能をすぐに取り除く方法はありません。なにより、取り込まれないようにしなければなりません。

④現在、私たちが唯一使用できる放射能取り込み阻止剤は安定ヨウ素剤だけです。

⑤私たちは安定ヨウ素剤の効能・リスクを正しく理解し、万が一の事故の際は避難を含めて正しく行動すべきです。

27.11